

週日の説教

金 大烈 神父 2009年5月2日(土)

《励ましあい、愛しあい、ともに歩みましょう》

今日は、二つのことについてお話しします。

一つ目は、今日の福音(ヨハネ 6:60 - 69)を読みますと、たくさんの弟子達がイエス様の話に反発して去って行ったと書かれています。では、どんな話をしたから弟子たちがひどい話だと言ったのでしょうか。それは、昨日の福音で読まれた内容です。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲まなければ誰も永遠の命を得ることはできない。わたしは天から降った生きたパンであるから。」という内容です。

そしてこの箇所意外にも、「選ばれたものはたくさんいるが、天国に入るものは少ない」という言葉もあります。

ところで、2000年前にイエス様に直接会った人々と今の時代の私たちと、どちらがイエス様を信じやすいと思いますか。2000年前に直接イエス様の振る舞い、声、ジェスチャーなど、全てを見た人のほうがイエス様が神様の子であることを信じ易かったでしょうか。それとも一度も見たことのない私たちのほうがイエス様を信じ易いのでしょうか。

たぶん人間的な考えでは、直接出会えた人々のほうが実感があり、信じやすいと答えると思います。しかし、信仰的に考えてみますと、またカトリック信仰を2000年間保ちながら発展されたカトリック要理によりますと、2000年前の人より今の時代の人の方が証拠を持っていて信じ易いことになります。

実際、たくさんの弟子達が去った時に、「わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」とイエス様に言ったペトロでさえ、復活の体験、そしてその後の聖霊降臨までは、逃げること、避けること、怖がることばかりでした。人間の弱さが信仰的に乗り越えられなかった証拠だと思います。

それに比べて、今の時代の私たちは、2000年間のたくさんの殉教者、たくさんの聖人、そしてたくさんの信仰的、霊的な体験をできる友達に出会えます。また、2000年前よりもっとまとめられた聖書の知識も持っています。何が、いつ、どこで、どのようにしてこのような言葉が作られたのか。それがある程度私たちには分かっています。

今の時代はある程度、そういう面でも基礎が出来ています。

皆様、信仰の生活をしている私たちの中にも中途半端な信仰を持っている人々がたくさんいます。洗礼は受けたけれど、雰囲気により、個人的な事情により、仕事の事情により、生ぬるい信仰の生活をする人が結構います。また、教会に背いている人々もいます。皆様のそばにも、名前はカトリック信者なのに一年に一回くらいしかミサに与らず、全然信者でないような態度や生き方を見せる人がいるでしょう。私たちは、イエス様からの呼び出しに応じてこのように集まっています。皆様がイエス様を選んだのではなくて、イエス様が皆様を選んだのです。それが考えられ、体で感じられれば、信仰に気軽に背を向けることはできないと思います。命であるパン、命である血、それを私たちは食べながら、飲みながら信仰の生活をしています。今日の福音をとおしてそういうことをもっと深く感じましょう。皆様は、本当に恵まれています。それを自覚してください。全知全能の神様から選ばれたこと、選ばれたのならば相応しい心を持つと努力しなければならないと思います。

二つ目に、聖書の中で、ペトロが見せてくれたいろいろな人間的な弱さが私たちの中にも存在することを否定は出来ません。私たちも弱さを持っています。だから、お互いに励ましあい、愛しあい、

ともに歩まなければならないことをもう一度意識しましょう。私は一人で祈りながらきちんと神様の
み旨にかなう道を歩みます と言う人々がいますが、それは間違いです。イエス様がおっしゃった福
音は、一人では絶対できないのです。イエス様が命令されたのだから、自分の好みでないこともしな
ければなりません。あの人を絶対赦したくないと思っても、「赦せ」といわれたのだから赦さなければ
ならないのです。赦そうとしても相手がいなければその言葉には意味がありません。共同体の中に入
って、一緒にいろいろな難しさにぶつかり、関わりながら祈りのうちにそれを乗り越え、一緒に神様
の国を築くこと、それが私たちの使命ではないかと思えます。

もし私たちが天国に入れば、そこには 教会 という言葉はなくなるでしょう。司祭 とか 奇跡、
償い というものもなくなるでしょう。それができる今の世界、この世の中で、本当に飽きるくら
い果たしてみましよう。それが一番やりがいを感じる人生になると私は確信しています。

ありがとうございました。